

武蔵野大学

環境学部 環境学科 環境学専攻



環境プロジェクト特別演習
活動報告書 2009年度版

■ CONTENTS

- 02 はじめにー環境プロジェクトについて
- 03 環境プロジェクト特別演習の活動風景
- 04～12 プロジェクトリスト
 - 04ーINDEX・リストの見方
 - 05ープロジェクトリスト
- 13～20 特集
 - 13ースポーツGOMI拾い
 - 15ー田無小学校環境教育
 - 17ー有明新キャンパス
 - 19ーOne Planet Café Musashino
- 21-22 連携先の皆様よりー第三者意見
- 23-24 環境プロジェクト特別演習担当の先生方より
- 25 旧プロジェクト一覧



環プロのはじまり

多くの人はある未知の事柄について知りたいと思っていた時、誰かにその解答を教えてください。大学の授業では、このような未知の専門知識を教えてください。ところが教えてください、そのこと自体は理解できても、その瞬間に疑問を抱いていた「知的な好奇心」は消えてしまいがちです。

このジレンマを改善する方法はないだろうかと、他大学にはない授業「環境プロジェクト特別演習」（以下、環プロ）が始まりました。このアイデアの元になったのは、ある私立大学が全学生を対象に行っていた「学生チャレンジ制度」です。この制度では学生はやってみたい企画を応募します。大学はテーマの中から優れたものを選び、予算を付けるというものです。テーマは様々ですが、挑戦した学生の達成感は大いといわれました。

環境学部の学生は何か環境活動をやりたいと活動的です。きっとこのような授業形態でもチャレンジして、成果を上げてくれるに違いない、と環プロを行うことにしました。

(活動報告書 2009 矢内教授のコメントより)



環プロとは

「環境プロジェクト特別演習」という授業科目を中心に行われる体験型の学習です。ですが、取り組んでいる学生たちは、さまざまなアクティビティ（活動）を楽しんでいるようです。それは自分のテーマ以外の仲間からボランティアとしての応援要請があると、多くの学生が動くことから分かります。

この環境プロジェクト・テーマへの取り組みですが、新入生が授業に慣れてきた7月初め頃、そのときに実働しているプロジェクトの紹介があります。そして、1年秋から参加します。中には、秋からの取り組みが待ちきれずに入学後すぐに参加する学生もいます。

プロジェクト・テーマは、「街づくり」や「環境教育を通して社会貢献する」、「環境ビジネスを生み出す」、「エコ商品の販売企画」など多岐にわたりますが、独自のものを立ち上げることもできます。必要に応じて学外（産・官・民）と連携します。学生はこれらのテーマの中で2ヶ月から3ヶ月くらいの企画を考えて、実行しています。その過程をPDCAサイクル（Plan, Do, Check, Act）つまり企画し、実行し、結果を吟味してさらにより良い企画を出すというように体験学習します。

授業外の活動が多いのですが、活動・運営はあくまで学生の自主性にまかされています。このような授業はおそらく他の大学にはないでしょう。（環境プロジェクト特別演習 HP：<http://mufes.jp/>より）



環境プロジェクト活動報告書発行にあたって

今年度の活動報告書は、活動報告書制作プロジェクトを立ち上げ、メンバーがインタビューのアポイントを取ることから原稿の校正まで行いました。

また、今回は初めて提携先の皆様から第三者としてご意見をいただく等、CSR報告書や環境報告書を意識して作成しました。

そして環プロ履修者のもとより、環プロご担当の先生方から提携先の皆様まで、幅広く活動報告書の制作にご協力をいただきました。タイトなスケジュールの中、快くご協力くださり、ありがとうございました。

ご協力いただいたことに対し、精一杯制作いたしましたので、この活動報告書が少しでも有意義なものとなれば幸いです。（編集部一同）





環境プロジェクト特別演習の活動風景

- Candle Night(左上)：会場内のキャンドルの様子
- ECO REPORT WAY 21(右上)：環境・CSR 報告書の評価中
- 青丹菜(左下)：間引き前のハウレンソウ
- ビオトーププロジェクト(右下)：小学校6年生対象のイベントの様子





環境プロジェクト特別演習プロジェクトリスト



INDEX

エコプロダクト・プロジェクト	p.05	レτζョ武蔵野	p.09
Candle Night		有明新キャンパス	p.17
スポーツ GOMI 拾い	p.13	海洋発電推進委員会	
寄せ鍋		ECO REPORT WAY 21	
Yes my bottle		One Planet Cafe Musashino	p.19
再利用プロジェクト ～2 R+re-make～	p.07	自然防衛軍	
エコフレンズ		ピオトーププロジェクト	p.11
大人の環境教育 ～世代間コミュニケーション～		青丹菜	
田無小学校環境教育	p.15	ヨロピコ会	
トムソーヤクラブ			

リストの見方

①系統分類

- イベント系
- エコプロダクト系
- 環境教育系
- 環境政策系
- 環境マネジメント系
- 国際交流系
- 自然系
- 食育系

②プロジェクト名

③プロジェクトメンバー

④連携先 (ある場合のみ記載)

⑤WEB サイト (ある場合のみ記載)

⑥プロジェクトの説明



プロジェクトリストの見方例



①

環境マネジメント系プロジェクト

②

ECO REPORT WAY 21

■プロジェクトの目的：次世代の社会人になる学生を育てることは、企業にとっても社会にとっても有益です。さらに、若い視点を取り入れることで、より魅力的な報告書を作成することにつながります。また学生はより身近に企業を感じることができるので、将来の自分をより具体的に考えることができます。このように企業・学生の双方にとって利益になる活動にすることが目的です。

■プロジェクトの活動内容：企業が発行している、環境 CSR 報告書の評価・分析しています。評価には ECO REPORT WAY 21 の学生メンバーが作成したリクルートのための 21 の指標を使い、各自でよく読み 5 段階でつけています。また、評価・分析結果を企業に学生が報告に行き、お互いに意見を交換する場を設けています。この活動の会議はすべて議事録としてまとめ、学生は PDCA を実践しています。

■今後の目標及び予定：今春に企業へ報告書の評価・分析結果を報告に行きます。昨年度は 10 社を評価しましたが、来年度はさらに評価対象を増やしていく予定です。ECO REPORT WAY 21 の活動を大きくすることはもちろん、確かな組織に作り上げるための土台をしっかりと固めることが目標です。

⑥

③

M.Kubokawa N.Sawada A.Ishii
Y.Unai Y.Miyata K.Ono
T.Kawatsu S.Saito T.Sasagawa
S.Nakauchi Y.Fujita

■連携先：ニッセイエプロ株式会社
(<http://www.eblo.co.jp/>)
NPO 法人 環境情報ネットワーク エコネット
(<http://www.npo-econet.com/>)

■ECO REPORT WAY 21 ウェブサイト：
<http://www.ecoreport.jp/>

④

⑤



▲環境・CSR 報告書の評価中



▲キックオフミーティングにて



エコプロダクツ・プロジェクト

■プロジェクトの目的：環境プロジェクトの存在、活動内容を外部に伝えるために他大学、企業との交流関係を築き、今後の環境プロジェクトの発展を促すことを目指しています。

■プロジェクトの活動内容：昨年度は日本最大級の環境イベント「エコプロダクツ 2009」に参加しました。出展プロジェクトの決定から、活動内容の紹介パネルの制作、ブース準備、活動内容の説明等、環境プロジェクトの窓口として活動しています。

■今後の目標及び予定：未定です。

A.Totsuka	Y.Kato	H.Sayama
H.Nakagawa	K.Watanabe	S.Endo
Y.Sakai	K.Hara	H.Yamamoto
A.Ito	S.Sato	



▲ 来場者への説明をしている様子



▲ 展示したパネルとメンバー

Candle Night



■プロジェクトの目的：時間の流れがゆっくりと感じられるキャンドルを囲み、友人や知人とスローな時間を共有することで、友達・家族・自分の将来・自分自身が環境の為に何ができるのかなど、何かを考えるきっかけの場を提供したいと思っています。そこは電気に灯された日常的な空間ではなく、普段とは違ったコミュニケーションを体感できる時間となるはずです。

■プロジェクトの活動内容：年に2回、夏至と冬至に武蔵野大学のグリーンホールにてキャンドルナイトを実施しています。その他にも、武蔵野大学出身でピアノ弾き語りの松本佳奈さんのキャンドルナイトにもお手伝いとして参加しています。夏至と冬至に行う理由は、「100万人のキャンドルナイト」が夏至と冬至の夜8時から10時までの2時間行われているためです。私たちはこの100万人のキャンドルナイトに参加したいという思いで活動しています。

■今後の目標及び予定：今後も夏至と冬至に予定通りキャンドルナイトを行います。今後は学内生だけでなく、地域の方々にもたくさん参加してもらいたいと思っています。

M.Nonaka	K.Kitagawa	Y.Sakai
Y.Hayashiguchi	D.Yamamoto	
K.Umeda	Y.Kosaka	A.Saruya
R.Takahashi	T.Hizume	

■連携先：株式会社 エクラアニマル
(<http://darumad.hp.infoseek.co.jp/>)
有限会社 エイチアンドエイチアソシエイツ
キャンドル・押し花サロン アルバパーティン
(<http://www.hh-associates.co.jp/>)
シンガーソングライター 松本佳奈 様
(<http://cana.me/>)



▲ キャンドルポット作りブースの様子



▲ メインキャンドル（時計）の様子



寄せ鍋

■プロジェクトの目的：地域の方やイベント参加者の環境意識を高めてもらうために、MY箸、エコバックの作り方を知ってもらうことです。またイベントを通じて学生自身の知恵や経験、活動力の向上を目的としています。

■プロジェクトの活動内容：MY箸や傘布エコバックを参加者と一緒に作るというイベントを開いて活動しています。これまでに、MY箸作りのイベントを3回、傘布エコバック作りのイベントを1回行いました。MY箸作りとは竹を用意してノコギリや鉋で細かくするところから始め、箸の長さになった竹をカッターややすりで削りMY箸を作るという作業です。傘布エコバックとは使い古された傘布を使ってエコバックを作ることです。傘布エコバックは傘ならではの防水性や軽さ、持ち運びやすさのほか、傘にプリントされた柄模様などのデザインがバッグに付くのが特徴です。

■今後の目標及び予定：MY箸や傘布エコバックの品質向上と改善が必要だと思います。今後はさらに企業と提携して大きいイベントに参加したいと思います。また、次回参加するイベントを探したいと思います。

K.Watanabe S.Kurita H.Sayama
D.Aoki S.Endo M.Sahara H.Nishi
K.Hara A.Iwakami N.Ōki
A.Okutomi R.Komachi Y.Nakamura
M.Nishidate T.Hirokaga



▲ MY箸作りイベントの様子



▲ プロジェクトメンバー

Yes my bottle



■プロジェクトの目的：現在の飲料品における容器とそれによる廃棄物の問題を解決するため、流通・販売方法を見直すことを軸とし、持続可能な社会の実現のために、より適した方法を考え、活動するプロジェクトです。

■プロジェクトの活動内容：学内でのマイボトルの使用について考えています。現在は、有明新キャンパスプロジェクトと共同でマイボトルを使用しやすいキャンパスを目指し、学内でのタンブラー販売、マイカップ式自販機の導入について考え活動しています。

■今後の目標及び予定：マイカップ式自販機の導入に向け、自販機調査や衛生面の対策を考え、有明キャンパスに設置させたいと思います。また、タンブラー開発を学校側へ提案し、学内でのタンブラー販売を実施するとともに、学生のマイボトル使用率を高めたいです。

Y.Takamizawa Y.Kato S.Natsui
Y.Yamaki T.Koguchi S.Koyama
S.Suzuki K.Miyagawa M.Yoshida



▲ アースデー TOKYO にスタッフとして参加



▲ 新キャンパスプロジェクトとの合同会議の様子

再利用プロジェクト～2 R+re-make～

■プロジェクトの目的：ごみをごみとして捉えない、Reuse、Recycleに続く“Remake”を実現し、自分達なりの3Rを主として活動していくことです。

■プロジェクトの活動内容：身近な不用品を回収して、リサイクル出来るものはリサイクルに、出来そうにないものを他のものにリメイクしていきます。現在は本校の教科書を下の学年へリユースするため、教科書の種類や段取りについて話し合うとともに、学校にあった傘の柄の部分を使い、CDラック等簡単なものを作る活動を行っています。今は溶接等の技術がどれほど出来るものかを調べている段階です。

■今後の目標及び予定：今後は、教科書の回収・配布の段取りを決め、校内にあるものをリサイクル・リメイクする予定です。また、今後の目標は、集めたものをどんどんリサイクル・リメイクし、いずれはエコ商品やリメイクTシャツ(古着等)、エコバックや筆箱等を自分達で作って、フリーマーケットに参加することです。今年度の後期に立ち上げたばかりのプロジェクトなので、まだ内容が薄いですが、これからもっと盛り上げていきたいと思ひます。

T.Hirokaga Y.Kosaka
M.Mie S.Yanagisawa



▲洋服の一部を切り取って作った筆箱



▲メンバーとの会議の様子

エコフレンズ

■プロジェクトの目的：自然の中での遊びを通じて、自然を知り、学び、尊重する心を育み育成することが目的です。最終的には、現在の自然と人間はどのような関係にあるか、これからどのような関係であることが望ましく、それには何をすべきかを考え、実行できるように、子供達に自然を通して伝えるつもりです。

■プロジェクトの活動内容：社会教育センター、学童施設、幼稚園、保育園、小学校などの公的施設で、子どもたちへ自然に対して少しでも興味や関心をもってもらうために自然のものを使った遊びや動植物をテーマにしたゲームをプロジェクトメンバーで考え実施をしています。主に小学校就学前から小学校低学年の児童を対象としています。

■今後の目標及び予定：今後は、プロジェクトメンバーで実施できる自然をテーマにしたゲームの数を増やしていき、児童館などに協力を求めながら、活動の幅を広げ、多くの子どもたちに自然で遊ぶことの楽しさを感じてもらえるように活動していきたいと考えています。

Y.Ito J.Kanesaka
M.Saito M.Tachibana
M.Tajima H.Yuyama



▲～どんぐりゴマを作って遊ぼう！～



▲主要メンバー写真

大人の環境教育 ～世代間コミュニケーション～

■プロジェクトの目的：子供世代より大人世代の方が環境意識が低いという考えから、子供向けではなく大人に向けて環境教育コンテンツを発信していく企画です。社会人と学生の交流をはかること、世代間の考え方の違いを知ること、そして環境について共に学んでいくことを目的としています。

■プロジェクトの活動内容：今年度は、気候変動と地球温暖化問題、アジェンダ21とローカル・アジェンダ、環境首都制度からのヒント、環境モデル都市（地方都市・コンパクトな都市・千代田区）をテーマにして、毎回学生たちで話題提供を行い受講者の方と意見を交換し合いました。当日は、学生のプレゼンテーションの発表を行い、その後に受講者の方とディスカッションを行います。様々な意見が出てくることにより、社会システムの変革の必要性を確認し価値観を共有することができます。

■今後の目標及び予定：今後は、三鷹の「持続可能な社会のためのまちづくり(仮)」講座の中で行う予定です。この講座では低炭素社会をむかえたときの地域社会でのライフスタイルや社会システムを具体的にイメージしようと思います。

トムソーヤクラブ

■プロジェクトの目的：トムソーヤクラブでは、新しい世代を担う子供たちが自然に親しみ、自主性のある、健康で愛情に満ちた人材に育てることを目的としています。

■プロジェクトの活動内容：目標を達成するためのひとつの活動として、キャンプや自然旅行を行います。また、リーダー間の連携の強化、アウトドアの知識取得・技術向上を目的として月1回開催される定例ミーティング、随時開かれる講習会にも参加しています。

■今後の目標及び予定：1月は、新企画の話し合いを目的とした定例ミーティングに参加し、2月は、現在社会人として活動しているトムソーヤOB・OGの方々のお話を聞き、活動へと活かすこと目的とした講習会に参加、3月は、本番であるスキーツアー、本番の予行練習としての研修を予定しています。目標としては、現在の活動は日本旅行の企画・提案に沿ったものであるため、武蔵野大学プロジェクトメンバー独自の企画・提案を考え、独自の活動も始めたいと思っています。

Y.Hayashiguchi Y.Kato
J.Sugimoto S.Natsui
S.Sato K.Miyagawa



▲担当者は自分の作成したパワーポイントで発表



▲当日の様子

S.Yamaguchi K.Ono S.Saito
T.Sasagawa T.Hirokaga

■連携先：(株)日本旅行
トムソーヤクラブ事務局



▲研修でのハイキングの帰り道



▲夏のツアーでのキャンプファイヤー



レヅジョ武蔵野

■プロジェクトの目的：子供たちが持っている感性や創造力を伸ばすこと、ものづくりの面白さを知ってもらうことを目的として活動しています。イタリアのレヅジョ・エミリア市の幼児教育「レヅジョ教育」を参考に、家庭や企業でいらなくなった物や葉、貝、石などの自然にあるものを「リサイクル素材」として子供たちに提供し、五感を使った創作・体験活動を行っています。

■プロジェクトの活動内容：エコプラザ西東京主催で開催している4歳～小3のお子さん向けワークショップに、講師の石井さんの下、共同というスタンスで、企画の提案、チラシ案作成、会場準備から当日の運営、片づけまでをしています。

■今後の目標及び予定：今後はより充実したワークショップを作り上げるために「レヅジョ教育」について深く学んでいきたいと思っています。また、来年度もエコプラザ西東京でワークショップを行っていく予定です。これまでは月に一回の頻度でワークショップを開いていましたが、来年度は2ヶ月に一回、2日間連続で開く方向で、現在話し合いを進めています。

T.Shibata K.Akahori M. Ōyabu
D.Sato K.Tsurusawa
Y.Teshima Y.Matsuo

■Yahoo! ブログ レヅジョ武蔵野：
http://blogs.yahoo.co.jp/reggio_musashino



▲ワークショップ前日の準備風景



▲ワークショップ当日の様子

海洋発電推進委員会

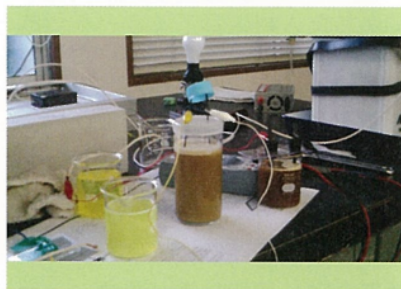


■プロジェクトの目的：火力発電にかかるコストとそこから発生するCO₂の削減や、火力・原子力発電からの移行による自然保護を図るために、海洋エネルギー（波力、潮力、浸透圧）を利用した発電システムの開発を目指しています。現存の波力発電を小型化し、河川での利用など、日本が島国であるという利点を最大限に生かせる発電を知ってもらうことを目的としています。

■プロジェクトの活動内容：波力・潮力・浸透圧発電システムの研究、流体力学の勉強、実験室での実験を行っています。

■今後の目標及び予定：発電機を製作し、河川やプール、水槽などで実験をしたいと思っています。そのために東京湾の潮流を測定し、波力発電の際に効率的に発電できるポイントの搜索や河川で利用可能な発電機の製作、浸透圧発電装置の製作・発電実験、波力発電装置の製作などを行っていきたいと思います。

Y.Kobayashi Y.Kinoshita Y.Tajima
K.Naono K.Nemoto



▲水溶液の電気分解



▲発電機の分解



ECO REPORT WAY 21

■プロジェクトの目的：次世代の社会人になる学生を育てることは、企業にとっても社会にとっても有益です。さらに、若い視点を取り入れることで、より魅力的な報告書を作成することにつながります。また学生はより身近に企業を感じることができるので、将来の自分をより具体的に考えることができます。このように企業・学生の双方にとって利益になる活動にすることが目的です。

■プロジェクトの活動内容：企業が発行している、環境 CSR 報告書の評価・分析しています。評価には ECO REPORT WAY 21 の学生メンバーが作成したリクルートのための 21 の指標を使い、各自でよく読み 5 段階をつけています。また、評価・分析結果を企業に学生が報告に行き、お互いに意見を交換する場を設けています。この活動の会議はすべて議事録としてまとめ、学生は PDCA を実践しています。

■今後の目標及び予定：今春に企業へ報告書の評価・分析結果を報告に行きます。昨年度は 10 社を評価しましたが、来年度はさらに評価対象を増やしていく予定です。ECO REPORT WAY 21 の活動を大きくすることはもちろん、確かな組織に作り上げるための土台をしっかりと固めることが目標です。

M.Kubokawa N.Sawada A.Ishii
Y.Unai Y.Miyata K.Ono
T.Kawatsu S.Saito T.Sasagawa
S.Nakauchi Y.Fujita

■連携先：ニッセイエプロ株式会社
(<http://www.eblo.co.jp/>)
NPO 法人 環境情報ネットワーク エコネット
(<http://www.npo-econet.com/>)

■ECO REPORT WAY 21 ウェブサイト：
<http://www.ecoreport.jp/>



▲ 環境・CSR 報告書の評価中



▲ キックオフミーティングにて

自然防衛軍



■プロジェクトの目的：井の頭恩賜公園、その周辺地域の自然環境を保護・改善するために、まず外来魚が侵入することで崩れかけた生態系を主に外来魚駆除という方法で元の姿に戻すことです。

■プロジェクトの活動内容：井の頭恩賜公園の池にいる外来生物の駆除、外来魚の生態系の調査、環境調査を行っています。

■今後の目標及び予定：目標としては外来魚の捕獲量が減少傾向になるようにすることと、メンバーの生態系、外来魚、外来魚駆除についてなどの知識・理解を高めることです。予定としては、

- ①カイツブリの観察
- ②外来魚の卵、稚魚の捕獲や湖面に浮遊している落ち葉をすくうなどの時季に応じた活動
- ③捕獲した外来魚の処分方法の検討(堆肥化などの有効利用)
- ④既存のパンフレットとは異なる井の頭自然マップの製作
- ⑤現在さまざまな池でオオクチバスやブルーギル、ワニガメ等の外来生物が確認されていることや、池と池は川で繋がっているので、他の地域への活動の波及などを考えています。

D.Aoki S.Sato R.Takahashi
K.Tanaka A.Nagao H.Hayashi
S.Yamaguchi C.Yamada

■連携先：井の頭かんさつ会



▲ 筒状の仕掛けの引き上げ



▲ 捕った外来魚

ビオトーププロジェクト

■プロジェクトの目的：ビオトーププロジェクトのテーマは「人と自然との深いふれあい」です。都心を中心に自然が減少し、今わたし達の暮らしの中では自然を“見る”機会はあるても“ふれあう”機会は少なくなりました。このプロジェクトでは、身近に自然を感じてもらおうキッカケとしてビオトープを利用し、人と自然とのふれあいを目指して活動を進めています。

■プロジェクトの活動内容：ビオトーププロジェクトは、西東京市立田無小学校と武蔵野大学付属幼稚園で活動を行っています。小学校では、元からあった池の整備も兼ねて小学生と一緒にビオトープの制作活動を行いました。またイベントや環境教育への展開も行っています。幼稚園には園児に生き物への興味をもってもらおう目的で、ビオトープの設置を行いました。

■今後の目標及び予定：武蔵野地域で活動を進める現在のビオトーププロジェクトは今年度をもって終了となり、キャンパス移転に向けて新たに立て直すことになりました。そのため新プロジェクトでは「埋め立て地である有明地域に生物を呼び込もう」をテーマに活動を展開していく予定です。

S.Koyama A.Iizuka Y.Ishimoto
M.Öde R.Shirai D.Aoki
M.Ömura I.Kaneko M.Yamaguchi

■連携先：田無小学校
武蔵野大学付属幼稚園



▲小学校のビオトープを使ったイベントの様子



▲幼稚園ビオトープ制作風景

青丹菜



■プロジェクトの目的：青丹菜（あおにさい）は、「自分たちが食べる作物を自分たちの手で育てることの大切さ」を実感し、ゆくゆくは循環型の農業を啓発していくことを目的とした環境プロジェクトです。

■プロジェクトの活動内容：春はNHKの取材や取材用の野菜作り、テレビ放送を。夏はトマト・ナス・シソ・ピーマン・バジルの収穫や、農家の方のご協力の元ジャガイモの収穫体験を。秋にはサツマイモの収穫体験を。そして、そのサツマイモを使い落ち葉を集めて焼芋大会を実施しました。2010年1月現在はダイコン・ソウレンソウ・イチゴ・ネギ・アカキャベツを栽培中です。昨年12月には循環型農業に近づけるために、食堂から出た野菜の生ゴミを使ったコンポストを稼働し始めました。

■今後の目標及び予定：今年度は農地の確保から出発することになります。今後の目標としては、コンポストをより充実させ、より深い知識を蓄え、昨年度以上に元気な野菜を収穫できるようにメンバー一同尽力してまいります。

N.Ishikura H.Öishi M.Öyabu
Y.Kita M.Tajima A.Ökutomi
M.Nishidate D.Yoshino



▲「夏野菜」シソはこれから巨大化します。



▲「雑草抜き」毎週火曜日は皆で畑の雑草抜きです。



ヨロピコ会

■プロジェクトの目的：「ヨロピコ会」は自分自身及び他者への食育を目的としています。私たちの目指す食育とは、食べ物を通じて環境問題や食べ物のありがたさを知ることです。

■プロジェクトの活動内容：活動内容は一人一品一人分持ち寄り方式で、毎週一回テーマを決めてお弁当会を行っています。その中で季節の野菜を学んだり、地産地消を実践したりしています。また、もみから稲を育て、収穫・脱穀までを行う『稲っていいね』プロジェクトの活動や、フードマイレージについての勉強会・講演会への参加なども行っています。

■今後の目標及び予定：青丹菜プロジェクトとの関係を強化し、さらに地産地消の実践をしていきたいと思っています。またトレーサビリティを活用し、フードマイレージの算出をして、環境負荷の少ないレシピの考案や、地産地消の推進を行ってきたいと思っています。さらに、『稲っていいね』プロジェクトの活動継続や、様々な講演会への参加を予定しています。

A.Seki H. Ōishi Y.Unai
R.Takayasu H.Yuyama



▲お弁当会の様子



▲収穫した稲



特集について



今回の報告書で特集を組んだプロジェクトは、環プロ履修者へのアンケートを元に決められました。

このアンケートにより、以下のプロジェクトに決定しました。

<アンケートについて>

■アンケート対象者：

環プロ履修者全員

(1年生51人、2年生46人、3年生28人)

■ スポーツ GOMI 拾い p. 13

■ 田無小学校環境教育 p. 15

■ 有明新キャンパス p. 17

■ One Planet Café Musashino p. 19

■アンケート実施方法：

実動プロジェクトの中から4つ、

取り上げるべきだと思うプロジェクトを選出

■アンケート配布方法：

手渡し、授業中に配布、メール等適宜

■アンケート実施期間：

12/14～12/21の一週間

■有効回答数：88

No.	プロジェクト名	説明
1	エコリーフ	環境・社会・経済の持続可能な発展を促進し、ゼロエミッション社会の実現を目指す。
2	食育プロジェクト	食文化の継承・発展を促進し、食生活の改善を図る。
3	環境教育	環境問題の理解を深め、持続可能な社会の実現を目指す。
4	環境ボランティア	環境保護活動に参加し、社会貢献を行う。
5	環境調査	環境問題の現状を把握し、改善策を提案する。
6	環境啓発	環境問題の重要性を広く伝える。
7	環境アート	環境問題をテーマにしたアート作品を制作する。
8	環境音楽	環境問題をテーマにした音楽作品を制作する。
9	環境ダンス	環境問題をテーマにしたダンス作品を制作する。
10	環境映画	環境問題をテーマにした映画作品を制作する。
11	環境ドキュメンタリー	環境問題をテーマにしたドキュメンタリー作品を制作する。
12	環境小説	環境問題をテーマにした小説作品を制作する。
13	環境詩	環境問題をテーマにした詩作品を制作する。
14	環境演劇	環境問題をテーマにした演劇作品を制作する。
15	環境舞台	環境問題をテーマにした舞台作品を制作する。
16	環境音楽会	環境問題をテーマにした音楽会を開催する。
17	環境コンサート	環境問題をテーマにしたコンサートを開催する。
18	環境フェスティバル	環境問題をテーマにしたフェスティバルを開催する。
19	環境祭	環境問題をテーマにした祭を開催する。
20	環境展	環境問題をテーマにした展覧会を開催する。
21	環境講演会	環境問題をテーマにした講演会を開催する。
22	環境シンポジウム	環境問題をテーマにしたシンポジウムを開催する。
23	環境ワークショップ	環境問題をテーマにしたワークショップを開催する。
24	環境セミナー	環境問題をテーマにしたセミナーを開催する。
25	環境講座	環境問題をテーマにした講座を開催する。
26	環境勉強会	環境問題をテーマにした勉強会を開催する。
27	環境勉強会	環境問題をテーマにした勉強会を開催する。
28	環境勉強会	環境問題をテーマにした勉強会を開催する。
29	環境勉強会	環境問題をテーマにした勉強会を開催する。
30	環境勉強会	環境問題をテーマにした勉強会を開催する。

◀ 配布したアンケート

次のページより特集ページとなります。



スポーツ GOMI 拾い



■連携先：深浸呼吸有限責任事業組合・ハートツリー株式会社



■プロジェクト紹介：

スポーツゴミ拾いとは、ゴミ拾いというネガティブなものに、スポーツというポジティブな要素を融合させたものです。スポーツゴミ拾いプロジェクトでは、スポーツだと思ったらゴミ拾いだっただ、というように、スポーツを通してゴミ拾い・ゴミ問題について考えてもらうことが、活動目標となっています。

具体的な活動内容は、まず、企業などと会議を行ない、当日の流れ、景品、参加者リストの確認などを行なうことです。次に、看板作り、ゴミ管理場所、保険のチェック、実際に開催地の下見を行っての地図作成、備品のリスト化などを行なっています。当日の仕事は審判、誘導などです。本プロジェクトの連携先は、深浸呼吸有限責任事業組合（馬見塚様）やハートツリー株式会社（服部様）です。他にも、様々なメディアの人や主催者と組んで活動しています。主な活動拠点は東京ですが、今後は全国区で展開し、スポーツゴミ拾いを広め、学生参加者をもっと増やしていきたいと考えています。また、いかにメンバーに向上心を持たせ、情報共有を行なうかが今後の課題になります。





Project Member : M.Ôtake J.Sugimoto C.Nozaki M.Mochizuki S.Inoue A.Iwakami
K.Iwashita T.Hongo Y.Saito H.Tanaka A.Tutumi



▲ プロジェクトについて語る大竹さん



▲ プロジェクトメンバー

プロジェクトリーダーインタビュー

- プロジェクトを始めたきっかけ：
ゴミ拾いでなく、“スポーツ”に惹かれたことがきっかけです。
- 活動していて良かったこと、苦労したこと：
一番大きいのは、「やり遂げる」という達成感を得られることです。また、企業などの関わりが大きいので、企業体験にもなります。しかし、企業と関わることは、良いこともある反面、企業へ送る文書作成や広報など、大変なことも多いです。それから、メンバーに責任感を持たせるのにも苦労しました。今後の課題は、このプロジェクトを通して学生がいかに輝けるか？主体性を持てるか？ということです。
- 参加して何か変わった？：
生活の時間配分です。今までだらだらしていたのが、きっちりするようになりました。あと、落ち着いて話すようになりました。
- 提携先について：
このプロジェクトにとって大きな存在であり、必要な存在です。
- 自分に必要なもの：
大人としての自覚ですかね。このプロジェクトを通して将来について考えるようになったので。

“ゴミ拾いはスポーツだ！”
— どんどん学んで、やりがいを感じてもらいたい

- 憧れの人はいますか？：
人物像としては“団体をまとめる人”です。具体的には、高校の時の体育の先生。メリハリと芯の強さのある人でした。
- あなたの思うリーダーとは？：
自分は何もしないで、下に仕事を回していける人。アメとムチを使いこなせる人。要するに、うまくまとめあげることが出来る人だと思います。
- 後輩に伝えたい事：
後輩には、このプロジェクトの中で、社会人になる上での、学生ならではの関わり方をしてほしいです。せっかく大学に来てるんだから、どんどん学んで行って欲しいし、1つでもいいからやりがいを感じてもらいたいです。
- 環境プロジェクトについて：
実際入ってみると、想像以上に大きかったです。いいプロジェクトも沢山あると思います。これからも環境学専攻の目玉であり続けるためにも、今後はいろんな人とのつながりができて、将来性も変わっていくようなものになってほしいです。
- あなたにとって、ずばりこのプロジェクトとは？：
“ゴミ拾いはスポーツだ！”



田無小学校環境教育



■連携先：西東京市立田無小学校



■プロジェクト紹介：

田無小学校環境教育プロジェクトでは、西東京市立田無小学校の5、6年生を対象として、大学生が主体となり、環境に関する授業を考案し、実践しています。授業内容は小学校の先生と会議を繰り返して約半年をかけて作成し、当日は武蔵野大学校舎内で行います。授業を行い、自然と環境問題について高い関心を持つ児童を増やすことで、一つの社会貢献を目指しています。このプロジェクトは、今年で立ち上げから5年目を迎えます。昨年度の5年生は、エコラベルとかるたを使った学習、ネイチャーゲーム、わらからのハガキ作りといった授業を行いました。コンセプトは、勉強・遊び・実験です。6年生には、環境問題をベースにしたCMの作成を通して、受身ではなく自らが発信者となって、何が出来るかを考えてもらいました。大学生は撮影と編集作業を行い、CM内容の考案は全て小学生に任せて作成します。

次の世代へ向けた今後の目標は、メンバーのモチベーションの統一、そして授業・技術内容の向上となります。また、小学生の環境意識の向上は確認出来ましたが、授業後も、実際に環境問題に対する行動に移しているかどうかを知りたいと考えています。環境問題に興味を持って、視野を広げてもらうべく、日々の活動を行なっています。





Project Member : R.Wakabayashi H.Nakagawa D.Ikeda K.Ogawa Y.Oguri
 H.Sayama R.Hayashi Y.Ishihara A.Saito D.Sato M.Sahara
 H.Nishi H.Yamamoto R.Ishii Y.Iwasa N. Ōki R.Komachi
 M.Nakai Y.Nakamura K.Fujiki M.Mie S.Yanagisawa



▲ プロジェクトリーダー 若林さん



▲ プロジェクトメンバー

プロジェクトリーダーインタビュー

■このプロジェクトに入った理由：

1 番の理由は、親しい先輩が多かったことです。いろんなプロジェクトを経て、小学生の前で授業が出来るという貴重な経験をしていくうちに、これが自分に合っているのではと思い始めました。

■学んだこと、大変だったこと：

どうすればわかりやすいか、小学生に興味を持ってもらえるか、どうやってオリジナリティを出すかに苦労しました。授業を作ることも自体も大変です。パソコンの操作やサンプルCM作りなど事前授業の準備もあります。

■あなたの思うリーダーとは？：

責任感が人一倍無いとできない気がします。そもそも自分がリーダーになったきっかけは、もっといろいろ授業を考えてみたい、みんなをまとめたいと思ったからなんです。メンバーのモチベーションをあげることも大変だし、授業内容を理解して教えているのかどうか、把握してあげなくてははいけません。どんな人に対しても、ちゃんと意見を言えないといけませんし、小学校の先生と連絡を取るなど、裏方的な仕事もできないと務まらないと思います。

どうすればわかりやすいのか
 どうやってオリジナリティを出すのか
 ー常に進化していくプロジェクトを目指して

■プロジェクトの特徴：

やりがいがあります。教職を取るつもりで大学に入るのならば、絶対に損はしません。子供と触れ合うのが好きな人にもオススメ。見た目以上に大変ですけど…。「風通しのいいプロジェクト」にしたいので、1・2年生も意見を言えますし、1年生から環境に関する多くの知識を知識を身につけることができます。それに、先輩、後輩とても仲が良いですよ。小学校の先生とも親しくできます。積極的に動きたい！何かやってみたい！という人にぜひ来て欲しいプロジェクトですね。

■後輩に向けて：

環境プロジェクトを選ぶときには、どんな目的でやっているか明確に捉えることと、先輩の様子を見ることが大事だと思います。自分から「やりたい！」って気持ちで入らないと、ただくっついて行くだけの活動になってしまいます。

■あなたにとってこのプロジェクトとは：

常に前進して行って欲しいプロジェクトです。同じような授業を繰り返すのではなく、常に進化していくプロジェクトを目指していきたいです。



有明新キャンパス



■提携プロジェクト：Yes my bottle・海洋発電推進委員会・ビオトーププロジェクト



■プロジェクト説明：

本学では、2012年度にお台場に新しく有明キャンパスが開設される予定です。この新キャンパスが、より快適で、環境に配慮したものとなるように、学生の視点から様々な提案を試みるのが、有明新キャンパスプロジェクトです。緑化、ビオトープ、自然エネルギーの利用、交通など多様なテーマに分かれ、環境に配慮した未来型キャンパスづくりを目指しています。Yes my bottle、ビオトープ、波力発電といった様々なプロジェクトと協力し合い、それらをまとめあげながら活動をしています。当プロジェクトでは、新キャンパスに100%エコなカフェを実現させること、容器持ち込み式自動販売機を設置することが、現在の最重要項目となります。他にも、タンブラー作り、ハイブリッドの発電システムが一体化した気象観測システム、屋上緑化などの提案を行なっています。今後は、大学側といかにコンタクトをうまくとっていかかが課題となります。

有明キャンパスに
マイカップ式自販機の導入を目指す



Yes my bottle : p.06

海洋エネルギー発電システムの
開発を目指す



海洋発電推進委員会 : p.09

埋め立て地である有明地域に
生物を呼び込む活動を展開予定



ビオトーププロジェクト : p.11





Project Member : K.Miyagawa Y.Kato S.Natsui Y.Yamaki T.Koguchi
 S.Koyama S.Suzuki M.Yoshida Y.Kinoshita
 Y.Kobayashi Y.Tajima K.Naono K.Nemoto



▲ プロジェクトリーダー 宮川さん



▲ プロジェクトメンバーとの会議の様子

プロジェクトリーダーインタビュー

■プロジェクトを始めたきっかけ：

既存のものをエコ化するにはコストもかかり、根本的な解決には程遠い。ならば、今から造る建物をエコ化しない手はないと思ったんです。新キャンパスを環境配慮型の建物にすることで、未来から取り残されることのないように。それに、何かをつくるって楽しいですね！

■プロジェクト活動を通して：

当初は内容が大きすぎて、どこから手をつけていいかわかりませんでした。試行錯誤しているうちにやることが見えてきました。自分たちの成果を目にした時は、達成感を感じつつも、辛かった日々を思い出すんでしょうね、きっと。個人的に楽しかったのは、自分達の理想の建物や仕組みを、間接的ではあるけど作っていただけることですね。メンバーがみんなユニークだから、活動していて苦になるようなことはなかったですよ。活動して得たものは、行動力と繋がります。あと、プレゼンの能力・企業のアポとりなどの社交的な能力がつかえましたし、人前に出ても前ほどあがらなくなった気がします。

新キャンパスを自分たちの手で、
環境配慮型の建物へ
—何かをつくりあげることの楽しさを感じながら

■あなたの思うリーダーとは：

自分は、上から引っ張っていくより、みんなと一緒に上を目指すリーダーでありたいと思っています。重視するのは気配りや協調性ですね。けれど、頼られた時はきちんとやるというのも、もちろん大事です。

■後輩に伝えたいこと：

生活リズムがおかしくなる深夜バイトには気をつけよう。

■環プロについて：

入学前は、環プロの存在は知っていても、何をやっているのかまでは知りませんでした。環プロは、今ある技術や生活の改善をし、さらには環境問題の改善を図っているように思えます。でも、自分はずっと研究することも進めていくべきだと考えています。既存の方法やものを使うのではなく、新しい技術の考案や開発を行い、あわよくば特許申請でもしながら環境問題に取り組むのもよいかと思いますよ。

■あなたにとって環プロとは：

未来適合型ものづくり…かな。



One Planet Café Musashino

■ 連携先 : One Planet Café 東京、One Planet Café Zambia

■ One Planet Café : <http://www.oneplanetcafe.com/>



■ プロジェクト紹介：

ザンビア共和国在住の7人の女性たちと現地の国立公園でガイドを務めるビリー・エンコマ氏、そしてエクベリで夫妻が、“大人が学ぶ・集う・楽しむ”を目的にスタートした One Planet Café。これに賛同し、One Planet Café Musashino は活動を開始しました。当プロジェクトでは「知識のフェアトレード」を目標に、アフリカについての啓発活動、イベントへの参加、ザンビア共和国現地の方とのEメールを通じた交友などを行なっています。過去の活動には、渋谷 PEACE 祭 2009、WORK・LIFE BALANCE FESTA +ECO 2009 などイベントへの参加、武蔵野大学摩耶祭にて開店したアフリカンカフェなどがあります。昨年度からは、新しくみつばちプロジェクトも始まりました。その目的、及び目標は、養蜂技術の共有、蜜蜂を通してアフリカとつながること、複雑な自然から、温暖化を読み取ることです。

今後は、現地の方との交流をもっと密にするためにも、日本とアフリカとの共同事業の実施を検討中です。また、One Planet Caféの活動に興味を持ってくれた人に対して、つながりを持続できるような体制をつくっていききたいとも考えています。これからも、その国や地域のニーズを考え、グローバルな情報、知恵、ソリューションを結び、持続可能な社会づくりを目指していきます。





Project Member : M.Chiba A.Ishii M.Kojima M.Noguchi Y.Funo Y.Miyata
 K.Umeda T.Kawatsu T.Shimojyo Y.Douke
 M.Nakai H.Hayashi Y.Fujita M.Watanabe



▲ プロジェクトについて語る千葉さん



▲ プロジェクトメンバーとエクベリ聡子さん（中央）

プロジェクトリーダーインタビュー

■プロジェクトを始めたきっかけ：

国際交流のプロジェクトに入りたかったことと、先生からお話をもらった時、「これだ！」と直感したことがきっかけです。アフリカの人達と共に育つ、という点にとっても魅力を感じました。

■設立者のエクベリご夫妻について：

プロジェクトにとっても、私にとっても大きな存在です。考えていることのスケールが違うので、話し合いの度に新たな発見があります。いつも提案してもらえばかりなので、逆に提案できるくらいに成長していきたいですね。

■プロジェクトに参加して：

遠く感じていたアフリカが、以前より身近に思えてきました。イベントを通じてたくさんのお会いもありました。実際にアフリカにも行ってきましたよ！この活動をしなければ、こんなにも多くのきっかけ、そして発見はなかったと思います。逆に苦労した点は、アフリカについての情報がなかなか手に入らないことです。どうしても「遠い」感覚を捨て切れず、あやふやになってしまうこともあります。今後はアフリカへの理解を深め、現地の人とのメール等での交流も、さらに密にしていきたいです。

これまで、様々なことを開拓して進んできた
 —それはとても大変で、そしてなにより楽しかった

■あなたの思うリーダーとは：

多少の忍耐力があること。あとは、とにかくなんでも楽しめる人！

■後輩達に望むこと：

私達は様々なことを開拓して進んできました。それはとても大変で、そしてなにより楽しかったんです。ですから、後輩達にも、なんにでも興味を持って、とりあえずやってみよう！くらいの心意気で挑戦して欲しいですね。

■環境プロジェクトについて：

始めこそ戸惑いましたが、思っていたよりも早く、本当に夢中になれるものを見つけられました。プロジェクトをいくつもやることは素敵なことですが、自分の中心となり、帰れるようなプロジェクトが一つ、あるといいかもしれませんね。私にとって環プロは、大きなきっかけを与えてくれる場であり、全てのきっかけでもあります。One Planet Café Musashino は、まだまだ未発達で、これからどんな方向へも発展していけるプロジェクトです。それに臨機応変に対応できる柔軟性と、揺るがない信念を持てるようにしていきたいです。



環境教育企画コーディネーター 石井 希代子 様
環プロ歴：2年 連携プロジェクト：レッジョ武蔵野

“さまざまな素材を提供”

— 教えずに導く教育—レッジョ教育と同じスタンスで学生に接する—

■提携までの経緯：エコプラザ西東京から講座講師の依頼を受け、レッジョ・エミリア市で行なわれている地域ぐるみの子育てを实践したいと考え、武蔵野大学との共同プロジェクトを結成することになりました。

■レッジョ教育とは：レッジョ教育は教えずに導く教育です。メンバーには、本質を理解したうえで、学んだ知識を存分に発揮して、子どもたちを導いて欲しいですね。

■学生との関わり方：学生が気づききっかけをつくり、導くようにしています。直接何かをして欲しいとは言いません。色々なことに興味を持って、自発的に行なってもらいたいので、最終的には全てその人に任せています。

■学生が変わった点：一人一人の能力を生かすために誰が何をすれば良いか、自分で考えられるようになったことです。得意分野を互いに理解し合うことで、ワークショップもよりダイナミックになってきました。

■課題点と今後の活動：メンバーが少ないことですね。人数が増えれば、子どもたちとの関わりにゆとりができ、より多くのことを学べます。子どもの教育には男女両方の目線が必要ですから、女性メンバーが増えてくれればと思います。今後は、子どもも大人も楽しめる町ぐるみのイベントを企画していきたいですね。アートって領域がないから、みんな一緒になってできるんですよ。

■環プロについて：これからも、学生ならではの発想力や行動力を生かし、その場所でしかできない何かを、地域の人と提携しながら活動していつてもらいたいです。



▲「色彩体験」ワークショップの様子

関連ページ：レッジョ武蔵野 p.09



第三者意見を受けて



環境プロジェクト
特別演習担当教員
佐々木 重邦

素材、色彩などをテーマに6回にわたるワークショップを行った行動力、チームワークは評価できます。子供たちに何かを気付かせるレッジョ教育ですが、試行錯誤で行っている中でメンバーも何かを気付いたのではないのでしょうか。男性ばかりというのも新鮮に感じますが、やはり女性も必要でしょう。(佐々木)

学生メンバーは何を得たのかももっともっと表明して欲しいと思います。この先、オリジナルなアイデアの段階も見据えて欲しいことと、せっかくなので児童学科の学生も引き込んで欲しいと思います。(矢内)



環境プロジェクト
特別演習担当教員
矢内 秋生





田無小学校 主幹教諭 長尾 信一 様

環プロ歴：5年 連携プロジェクト：ビオトーププロジェクト
田無小学校環境教育

一生懸命考えて、思いっきり失敗してほしい！
ー 成功だけでなく、失敗を振り返り、それを糧に社会へー

■提携までの経緯：環境教育について模索していた頃、矢内先生の紹介を受け、田無小環境教育プロジェクトと出会いました。その後、大学生の実践の場としてビオトープを提供しました。

■学生との関わりの中で：大学生とは年代が近いので、小学生に新たな興味・関心を引き起こしてくれます。六都科学館や西原公園など、外に出かけることでみんなダイナミックになりましたね。ビオトープについては、大学側からの誘いがなければ環境教育の素材として認識しなかったかもしれません。

■課題点：生徒が楽しんでいたり、大学生に有意義な経験になっていたりするのを見ると嬉しいです。逆に、学生が自分のやりたいことを分かってないと、少し辛いものがあります。

ビオトーププロジェクト p.11

関連ページ：田無小学校環境教育 p.15

■学生に求めること：一生懸命考えた上で、思いっきり失敗してほしいです！成功したことだけでなく、失敗したことを振り返り、それを糧にして社会に出て行ってください。授業の進行に躓いてもフォローはできますから、自分たちがしたいことを第一に考えてほしいです。それから、教壇に立ったら指導者として臨んでもらいたい。ダメなことをしたら注意する、こういったメリハリが必要となります。それは服装や言葉の使い方にもできます。生徒に話すことは保護者にも話すということだと自覚できればと思います。また、どういう組織で、誰が動いているのかがよく分からないので、授業の狙いや目的がより見やすくなるとよくなると思います。



▲ビオトープの生物調査(左)と発表会後の長尾先生のお話(右)



第三者意見を受けて



環境プロジェクト
特別演習担当教員
佐々木 重邦

5, 6年生向けの環境教育のイベントなど様々な体験ができたと思います。ビオトープ作りでは、想定外の夏場の藻の発生など反省点も多かったと思いますが、是非、新キャンパスでの地域連携、ビオトープによる展開に活かして欲しいと思います。
(佐々木)

ビオトープのグループは、当初ゼロからの勉強会で始まり、ビオトープ池の再生まで行ったことは評価できます。環境教育グループでは、プログラムの立案、実践、授業指導など多くの努力を称えて良いでしょう。支えてくださった長尾先生の学生を育てるという視点に感謝します。
(矢内)



環境プロジェクト
特別演習担当教員
矢内 秋生



佐々木 重邦 教授（環プロ歴：21年度の4月～）

学生たちが成長することのできるひとつの手段
—それが環境プロジェクト

■環プロについて：学生が各自でテーマを決め、活動する、自主的な取組。企業との連携を通し、今まで経験できなかったことができる場所です。学年縦断的な連携が出来る点も、環プロならではの。

■環プロの課題点・学生に求めること：参加者の熱意に差があることが気になります。それと、目標を決め計画を立てて、実施後も定期的に見直すPDCAをちゃんとやってもらいたい。学生だけでなく、企業の人でも納得できるような説明の仕方を身につけられる機会も、もっとつくってほしいです。環プロを伸ばしていくためにも、クオリティーの向上は欠かせません。専門的な知識の習得も必要です。

■環プロを担当して：ERW21の活動を通して、学生の考え方を身近に感じる事が出来ました。学生たちも、企業に対しての説明や司会、議事録の書き方など多くを学べたようです。

■先生にとって環プロとは？：学生たちが成長することのできるひとつの手段。環境の知識だけでなく、プロジェクトの仕方も学ぶことができます。そうすることで、社会に出たときも自信が持てます。



野田 浩二 助教（環プロ歴：2.5年）

大学生活全体の活動を踏まえ、
自分の時間や労力をマネジメントする力を

■これまでの環プロ：初めて環プロを担当した時は、経験したことのないおもしろい授業だと感じました。昨年度はプロジェクトも履修者数も多く、活気がありました。

■今の環プロと学生との関わり方：学生が環プロに求める質が変わってきたように思います。例えば、ERW21のような研究型プロジェクトが更に増えるかもしれません。それと、定例報告会では他プロジェクトの成功や失敗からもっと学んで欲しいですね。悩むのは、環プロの目的である自主性を育てるために、どのような関わり方が最適かということです。公正に成績をつけるために、できるだけ各プロジェクトの実態を正確に把握しようと、とくに縁の下で支えている学生をみようとしてきました。

■今後について：プロジェクトの目的や計画性を、より明瞭にしてもらいたいです。来年度は環プロが変わり、あらたな段階に入るのかもしれませんが。学生達には、アルバイト、サークルといった大学生活全体の活動を踏まえて、自分の時間や労力をマネジメントする力を身につけて欲しいです。





村松 陸雄 准教授（環プロ歴：開講当時の7年前～）

環プロとは、武蔵野大学環境学科の謎の活動
—わからないものを、ひたすら追い求めていくもの

■環プロについて：1+1=3みたいな、集団思考が良いですね。今は、良い意味でも悪い意味でも「まとまっている」気がします。社会にインパクトを与えるなら、もっと常識を疑うようなものがあったらいいかもしれない。プロジェクトの成功は予定調和ではありませんから、一生懸命やった上での失敗は貴重な経験だと思います。要は、トータルでプラスにしていけば良いんですよ。

■これからの環プロ：今後は、実習棟みたいな専用の空間や、可視化出来る空間があると良いですね。一度、「環プロ」を再構築してみるのも面白いんじゃないかな。新しい考えがそこから生み出されるかも知れませんし。学生には、人から指示されるのではなく、自分で物事を見つけていってもらいたいです。一つの団体の中での対人関係から、その対応の難しさも学んでほしいですね。発表の場では、多くの人に物事を伝えることがいかに大変かも、学んでほしいです。

■先生にとって環プロとは？：「社会の縮図」。それか、武蔵野大学環境学科がやっている謎の活動（笑）真面目に言うと、わからないものをひたすら追い求めていくものですね。



矢内 秋生 教授（環プロ歴：開講当時の7年前～）

活動する力、仲間同士で調整し合う方法—
環プロを通し学生のたくさんの長所に気付けた

■現在の環プロ：過去の環境プロジェクトでは、先生がある程度テーマを掲げ、それに賛同した学生が加わり、それぞれの教室で調べるという、ゼミの延長線のようなやり方をしていました。現在は、それぞれが属している環プロだけでなく、ボランティア募集といった時に集まってくれる「雰囲気」があっという。教員のほうが押し付けたり、教えすぎたりしないところ、これが気に入っています。

■環プロのこれから：もっと外部と連携をして、学生の皆さんが勝手にネタを拾ってきてくれるといいですね。今は勝手に拾ってきたのもあれば、そうでないもの、従来のものを引き継いでいるものもあります。学生には企画力、実行力、情報発信力、自信を持つこと、脚色力、粘り強さを学んで欲しいです。環プロという授業を担当してみて、学生の皆さんの良さがよく分かったような気がします。活動する力とか、仲間同士で調整し合う方法、人間関係の良さとか。環境学専攻の学生はとて活動力がある。活発で前向きだし、人間的にもいい人がとても多いのではないのでしょうか。環プロは大変な授業ですが、他大学の環境学科にも負けたいものにしていきたいですね。

旧プロジェクトリスト

これまでに活動をしていたプロジェクトリストです。任期満了につき終了したプロジェクト、休止中のプロジェクトを含みます。現在実動はしていませんが、プロジェクトに関わったメンバーはなにかを得たはず、との考えに基づき掲載しました。

(活動報告書 2009 から抜粋)



イラストレーター講座

環境プロジェクトでは、イベントなどで活動履歴をポスター展示する機会が多くあります。そのため、一人でも多くの学生がポスター製作出来るようになるためにイラストレーター講座が開かれました。また、ポスターだけでなく名刺やポートフォリオなどの作成技術の習得も行いました。



環境芸術

自然を身近に感じてもらうために、手に入りやすい植物を自分なりのアレンジを施して育てるという活動を行いました。どのような植物がアレンジを行うのに適しているかを知るために、さまざまな植物の特性を把握する調査を行ったほか、植物を入れる容器についてもオリジナルなものにするための工夫やデザインを行いました。



クレイアニメ

このプロジェクトは幅広い世代に分かりやすく、なおかつ、面白く環境問題を知ってもらうことを目的として始めました。作品は武蔵野大学での「キャンドルナイト」や「WORK・LIFE BALANCE FESTA +ECO2008」などで上映されました。またクレイアニメの製作を体験してもらうセミナーの実施も行いました。



String Aid × 武蔵野大学

「String Aid」という学外団体と武蔵野大学の学生が協力して行いました。活動目的は一度音楽に使われた資源（弦やシールドなど）の回収・再資源化で、イベントでのアピールや学内の軽音サークル、他大学、リハーサルスタジオ、ライブハウスなどに呼びかけて弦などの回収を行いました。



DTP 講座

DTPとはDesktop publishingの略語で卓上出版を意味します。環境プロジェクト特別演習では学期末の成果報告レポートや環境イベントへの出展、ポスター作りなど、ベクトルグラフィック製作ツールや画像編集ツールを使用する機会が多くあるので、その使用方法を習得するための講座でした。



動画編集講座

このプロジェクトは従来のパワーポイントやポートフォリオではなく、動画というコンテンツで活動情報を発信するための技術習得講座で、学生主体で行われました。講座のほかに、小学校環境教育プロジェクトでのCM作成や、Benefit One Festaでのイベント動画の製作、クレイアニメの製作支援なども行いました。



地域活性化プロジェクト 双葉

環境学科の環境学専攻と住環境専攻の、異なる専門分野の学生が共同で活動したプロジェクトでした。活動目的は環境共生型の地域イベントの開催で、多摩六都科学館の工作教室の一環として子どもたちや地元の方々と、釘を一本も使わない工作を売りに、ピンボールを作るイベントを開催しました。



Benefit One Festa 企画チーム

福利厚生代行企業Benefit Oneの主催する「WORK・LIFE BALANCE FESTA +ECO2008」にスタッフとして参加するだけでなく、武蔵野大学としてブース出展、クレイアニメ製作セミナー、環境劇公演、環境ゲームの実施、ごみステーションの設置、スタンプラリーなどの企画、運営を行いました。



水辺の奇跡

このプロジェクトは水生植物を利用し、自然に近い形で水質の浄化を図り、水質浄化に利用した植物を食料とすることで環境モデルを作ろうとしました。その為に、井の頭公園での水生植物による水質浄化実験に植物を植える装置（野菜筏）の製作から植え付け、収穫、試食を行いました。



ムラサキプロジェクト

絶滅危惧植物種「ムラサキ」を大学内で栽培を行い、栽培記録をとりました。またムラサキの根は古来より高貴な色とされている紫色の染料ということなので、栽培したムラサキを本学薬学研究所の協力の下で検査したところ、染料の元となる色素がきちんと含まれていることが分かりました。



■ 環境プロジェクト特別演習 HP : <http://mufes.jp/>

■ 武蔵野大学 HP : <http://www.musashino-u.ac.jp/>

■ この活動報告書は、環境プロジェクト特別演習内で制作プロジェクトを結成し、作成されました。

■ プロジェクトメンバー：

環境学部 環境学科 環境学専攻 2年

石井 明日香 金子 一平 坂井 由里子 関 彩乃

野口 麻紀子 布能 友香 山本 大器

■ 発行：2010年3月

Musashino
University

